

## 学習内容報告書 フォーマット

学校名	鳥羽市立鳥羽東中学校
授業者	大東健吾、藤井栞、成瀬要、畑中伸之

### 1. 単元計画

実施した活動内容に基づきご記入ください。

#### 1-1. 単元名

動物の生活と生物の進化

#### 1-2. 学年

第2学年

#### 1-3. 教科（単元を実施する教科を全てお書きください）

理科、総合的な学習の時間

#### 1-4. 単元の概要

中学校理科第2学年の単元では、「動物の生活と生物の進化」（教科書は啓林館を使用）の4章「動物のなかま」を学習する。本単元では、「鳥羽の海岸に生息している生物について理解を深める」ことを一貫して取り組み、各授業で扱う題材には、極力、鳥羽の海岸で観察できる生物を紹介する。

#### 1-5. 単元設定の理由・ねらい

2018年度～19年度鳥羽東中学校1年生では、理科の授業の一貫で、地元の自然について調べる学習を行った。豊かな自然に囲まれる鳥羽市が観光文化都市を目指すうえで、生徒の郷土愛を育むと同時に、地元の自然について理解を深める学習が必要と考えたからである。この学習を通して、生徒は地元の海に興味があることや、家族の携わる職業に海に関するものが非常に多いことが分かった。特に、一部の生徒は、夏休み等に海で遊び、海に触れる経験は盛んであるが、海の自然について詳しく調べる経験、考える経験が少ないことが明らかになった。そのため、知識が少なく、探求する方法を持っていない。

#### 1-6. 育みたい資質や能力、態度

「自分たちの地域の海は自分たちが守っていく」そのような態度を育むためには、まずは地元の海のことを知ることから始めたい。今起こっている問題はなにか、そしてその問題を解決するために、どのような人々がかかわっているのか。そのようなことを正しく知ること、今後自分たちがどのように地元の海と向き合っていくかを深く考えさせたい。

1-7. 単元の展開（全15時間）

時数	学習活動・主な内容	教師の指導 / 主な評価 外部連携 / 使用教材等
1	8月25日 『なぜ海洋教育か?』	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小5で海の博物館で学んだこと（アンケート結果）手掛かりに、学んだことを整理する。</li> <li>・現地に行って、何をするかを知り、その準備を行う。</li> </ul>
2 3	8月26日 『生き物を分類しよう』	<ul style="list-style-type: none"> <li>・砂場、干潟、転石、磯、藻場それぞれの場所に生息する生き物について、学び、大まかに分類する。</li> <li>・理科「生物となかま」の単元内容と重複させ、学びを深めていく。</li> </ul>
4	9月1日 『野外観察を行うにあたって』	<ul style="list-style-type: none"> <li>・海岸で活動するにあたっての注意点を知る。</li> <li>・ZOOMにより各クラス分かれて行う。</li> </ul>
5 6 7	9月2日 校外学習『海の博物館へ行こう』	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前の研修（海の博物館 平賀館長）で、資料P9. 10. 17, 18の内容、海岸での活動にあたっての注意点を聞く。</li> <li>・白小浜で、主にアマモ場に生息する動物を探す。</li> </ul>
8 9	9月3日 『より詳しく生き物を観察しよう』	<p>捕獲した海の生き物を、図鑑を使って同定作業をすることで、より生き物の生態について詳しく学ぶことが出来る。</p> <p>外部講師：海の博物館より2名、三重県水産研究所より2名、鳥羽市役所より1名</p> <p>*外部講師を招くことが出来ない場合は、生き物を持ち帰らない。捕まえた生き物を撮影したら、海に戻す。</p>
10 11	9月7日 『個人新聞をつくろう』	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校外学習で学んだことを、新聞形式でまとめる。</li> <li>・完成した新聞を廊下に掲示し、相互評価を行う。</li> </ul>
12	9月8日 『1分間スピーチの準備をしよう』	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新聞でまとめたことの中から、特に印象に残ったことや、全体に発信したいトピックを考え、1分間スピーチを考える。</li> </ul>
13 14 15	9月24日（木） 『1分間スピーチで伝えよう』	<ul style="list-style-type: none"> <li>・クラスで、写真1枚を掲示しながら、そのことについて1分間スピーチを行う。</li> <li>・各クラスを3グループに分け、他クラスの生徒の発表を聞くようにする。</li> </ul>

## 2. 学習活動の実際

実施した単元中のキーとなるような時間（導入の時間・主となる活動の時間・まとめの時間など）の学習内容をご記入ください。また、複数の時間についてご記入いただける場合には、この項目をコピーして複数記入していただいて構いません。

### 2-1. 単元における位置づけ

単元  時間中の  時間目

※例：単元 10 時間中の 2 時間目 / 単元 15 時間中の 4, 5 時間目

### 2-2. 本時の目標

捕獲した海洋動物の種の特定ができるかな？

### 2-3. 本時の展開

主な学習活動 / 反応	教師の指導・支援 / 評価の視点（方法）
1 教師の説明を聞く	クーラーボックスから、保存容器を取り出す際の注意点を説明する。活動中は、不要な移動はせず、落ち着いて作業を進める。
2 各班に分かれて同定作業を進める	生徒が自ら図鑑などを使って種を特定させるように促す。こちらが安易に答えを提供しない。しかし、種の特定が困難な海洋動物については、外部講師につないでいく。必要であれば、各教室に設置した、双眼顕微鏡を使用させる。
3 記録用写真を撮る	班専用のカメラで、記録用写真を撮る。写真を取る際には、定規の目盛りを必ず入れて撮影するように声掛けをする。
4 片づけ	

## 3. 今回の活動の自己評価

図鑑を使っての同定作業は、想像しているよりも難しく感じた生徒が多かった。同定作業を進めるには、ひれの位置、色、数など細部に注目しないと種の特定が難しい。活動を進める中で、そのような気づきがあったことは大きな収穫であった。

また、校外学習の事前学習として、鳥羽市立海の博物館館長である平賀氏から「アマモ場の役割」についての講演を受けた。そのときに感銘を受けた生徒が多く、今回の海洋動物の同定作業を通して、よりアマモ場の役割の大切さを認識した生徒が多かった。

祖母が海女をしている、父親が漁業を営んでいる、海藻を加工して販売しているなど、海と強いかわりを持って生活している本校生徒にとって、家族との結びつきを強くする活動となったといえる。

#### 4. 今後の課題

昨年度、今年度と行った同レベルの活動を維持していくことが本校の使命であると考えます。そのためには、専門の理科教員が中心となって進める学習から、どの教員が携わっても自信を持って進められてる学習活動にしなければならない。

また、全職員、生徒に支給されている i-pad などのタブレットをさらに有効活用するため、活動で保存した海洋動物の画像や、活動データなどをクラウド上で保管し、誰もが簡単にアクセスできるように環境整備が必要である。

#### 5. 本学習内容報告書活用にあたっての留意点

※実施した單元ごとに作成してください。

※写真、画像、図表等の使用可。必要に応じて記入欄やページ数を増やしても構いません。

※基本レイアウト

フォント：MS 明朝、10.5 ポイント / マージン：上下端 20mm、左右端 16mm

※ファイル名は「学習内容報告書\_学校名」とし、複数提出する場合は学校名の後に数字を記載してください。

例：学習内容報告書\_海洋市立パイオニア小学校 1

※年間指導計画（年間の指導計画における単元の位置づけが分かる資料）があれば別添資料として提出してください。フォーマットの指定はありません。